

製品名: サイトケラチン 13 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09722**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT13
別名	KRT13; Keratin; type I cytoskeletal 13; Cytokeratin-13; CK-13; Keratin-13; K13
遺伝子 ID	3860.0
SwissProt ID	P13646
免疫原	抗血清はヒトサイトケラチン 13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 233-282

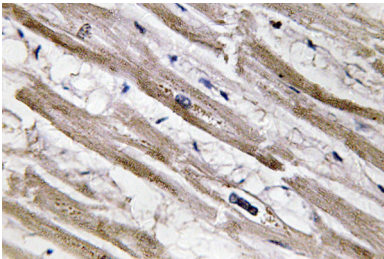
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。ケラチンは、上皮細胞の構造的完全性

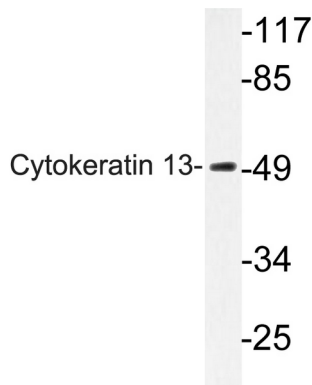
を担う中間径フィラメントタンパク質であり、サイトケラチンと毛髪ケラチンに分類されます。I型サイトケラチンの大部分は、異型ケラチン鎖が対になって配列した酸性タンパク質で構成されています。このI型サイトケラチンはケラチン4と対を形成し、非角化重層上皮の基底上層で発現します。この遺伝子とケラチン4の変異は、常染色体優性遺伝疾患である白色海綿状母斑と関連付けられています。I型サイトケラチンは、染色体17q21.2の領域に密集しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じますが、すべてのバリエーションが解明されているわけではありません。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患: KRT13遺伝子の欠損は、大腿骨頭白色海綿状母斑 (WSN) [MIM:193900]の原因となる。WSNは、主に非角化重層扁平上皮に発症する稀な常染色体優性遺伝疾患である。臨床的には、口腔粘膜に軟らかく白色の海綿状のプラークが出現する。特徴的な組織病理学的所見は、口腔上皮ケラチノサイトの基底上層における上皮肥厚、不全角化、および空胞化である。頻度は低いが、鼻、食道、生殖器、直腸の粘膜も侵される。、その他: 細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I型 (酸性、40~55 kDa) とII型 (中性~塩基性、56~70 kDa) の2種類がある。、オンライン情報: ケラチン-13 エントリ,PTM: O-グリコシル化; グリカンは単一の N-アセチルグルコサミン残基から構成される。、類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。、サブユニット: 2つのタイプIケラチンと2つのタイプIIケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン-13は通常、ケラチン-4と関連している。、組織特異性: 一部の表皮汗腺管 (タンパク質レベル) および外子宮頸管、食道、胎盤で発現する。、

研究分野

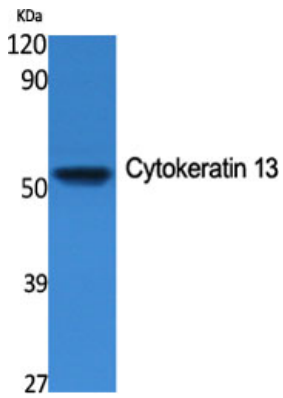
画像データ



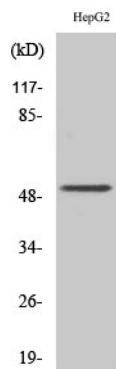
パラフィン包埋ヒト心臓組織におけるサイトケラチン 13 抗体の免疫組織化学分析。



サイトケラチン 13 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



サイトケラチン 13 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



サイトケラチン 13 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析